

I. 登録認定機関能力斉一化事業

1. 事前打合せ

登録認定機関は事業者を認定するに当たり、書類審査及び実地検査を行い認定の判断をするが、登録認定機関によって審査・検査能力や判断基準が異なると適正な制度運営に支障をきたしかねない。

そこで、個々の登録認定機関による認定業務のバラツキをなくするための講習等を行い、登録認定機関全体のレベルアップを目的として、登録認定機関の検査員及び判定員への研修会を開催した。

有機食品の登録認定機関との連携のもとで、(独)農林水産消費安全技術センターなどの関係者にご協力頂き、事前打合せを行った。

▽事前打合せ名簿

氏名	所属・役職
赤城 節子	特定非営利活動法人兵庫県有機農業研究会 事務局長
今井 悟	自然農法国際研究開発センター 理事
加藤 和男	特定非営利活動法人日本有機農業生産団体中央会 事務局長
丸山 豊	日本オーガニック検査員協会 理事長
渡邊 義明	株式会社アフアス認証センター 代表取締役
渡邊 久芳	(独)農林水産消費安全技術センター規格検査部 規格検査課 課長

(1) 日時

平成23年 7月4日(月) 10:00~15:00

(2) 場所

株式会社 三菱総合研究所 4階 会議室

(3) 概要

① 今年度の研修の方向性

検査員研修においては、平成22年度と同様にほ場と加工場での実施研修をともなう形式とし、研修対象も昨年度と同様に経験年数の比較的浅い検査員を中心に置くこととした。

判定員研修は、平成22年度と同様に東京と大阪において講義及び一部演習を取り入れた形式で開催するが、演習内容については見直しを検討する。

有機 JAS 規格の改正が平成24年1月に予定されているので、研修においては JAS 調査会の部会案をもって規格の見直し概要の説明を行うこととなった。

② 検査員研修の構成等

- ・ 研修の日程について、1日目の午前は有機 JAS 規格の見直し概要について農林水産省または（独）農林水産消費安全技術センターから説明を行い、午後から検査に関する一般的な講義と、実地研修に備えた検査のポイントの確認などを一部グループ形式で実施することとした。
- ・ 2日目の午前は、圃場または加工場で複数のグループに分かれて実地研修を行い、午後は、午前の内容を受けて、検査報告書作成のポイントなどを一部グループに分かれて実施する形式とした。

③ 判定員研修の構成等

- ・ 各登録認定機関の認定基準の相違点について検証し、その幅を縮めていくような内容にすることとし、特に相違点が多く見られるテーマを選定して、演習方法を検討していくこととなった。
- ・ テーマ選定のため、7月末に判定員研修の案内を出すのと同時期に各登録認定機関へのアンケートを実施し、意識調査を行うこととした。

2. 研修会の開催

2.1. 有機 JAS 検査員研修会

有機農産物及び有機加工食品の認定審査を行う検査員及びこれらを目指す者を対象に、規格の改正内容についての理解を深め、検査員に必要な基礎的知識を習得することを目的として研修会を開催した。

実地研修を取り入れることで、検査員個人のより実践的な検査能力の向上と斉一化を図ると共に、登録認定機関同士の意見交換により共通認識を持つことができた。

(1) 告知方法

登録認定機関等を通じて告知を行った。

(2) 開催日程及び参加人数

開催地	開催日	種別	開催場所	募集人数	参加人数
① 東北地方	平成23年 9月15日(木) ～16日(金)	農産物	JA大潟村 会議室 秋田県南秋田郡大潟村 字中央1-5 他	30名	13名
② 中国地方	平成23年 10月20日(木) ～21日(金)	農産物	第一セントラルビル A会議室 岡山県岡山市北区 本町6-36 他	30名	7名
③ 近畿地方	平成23年 10月6日(木) ～7日(金)	加工 食品	西播地域地場産業振興センター 601会議室 兵庫県姫路市南駅前町123番 他	20名	9名

④ 関東地方	平成23年 10月27日(木) ～28日(金)	農産物	株式会社三菱総合研究所 大会議室 ABC 東京都千代田区永田町2-10-3 他	30名	24名
⑤ 北海道	平成23年 11月1日(火) ～2日(水)	農産物	岩見沢市 コミュニティプラザ 多目的ホール A 北海道岩見沢市 有明町南1番地20 他	30名	23名
⑥ 関東地方	平成23年 11月10日(木) ～11日(金)	加工 食品	株式会社三菱総合研究所 大会議室 ABC 東京都千代田区永田町2-10-3 他	20名	20名
⑦ 九州地方	平成23年 11月16日(水) ～17日(木)	農産物	天文館ビジョンホール 6階ホール 鹿児島県鹿児島市 東千石町13-3 他	30名	19名
合計				190名	115名



講義の様子（姫路）



現場実習の様子（千葉）



演習の様子（千葉）



工場実習の様子（姫路）

(3) タイムスケジュール及び講師

【第一日目】

09:40~10:00 受付

10:00 開会

10:00~12:00 有機 JAS 規格の見直し概要

【東北】農林水産省 消費・安全局 表示・規格課

有機食品制度班 課長補佐 島崎 真人

【中国】農林水産省 消費・安全局 表示・規格課

有機食品制度班 有機農畜産物係長 松尾 敏行

【近畿】独立行政法人農林水産消費安全技術センター

神戸センター 規格検査課 主任調査官 森田 幸博

【関東（農産）】【関東（加工）】

独立行政法人農林水産消費安全技術センター

規格検査部 商品調査課 浅野 正博

【北海道】独立行政法人農林水産消費安全技術センター

札幌センター 規格検査課 山井 淳司

【九州】独立行政法人農林水産消費安全技術センター 福岡センター

門司事務所 規格検査課 専門調査官 酒瀬川 智代

12:00~13:00 昼食（各自）

13:00~14:15 実地検査の方法

- ・研修の目的とスケジュール
- ・実地検査の方法
- ・秘密保持について（秘密保持契約書の提出）

【東北】【関東（農産）】【関東（加工）】

株式会社アファス認証センター

代表取締役 渡邊 義明

【中国】【近畿】特定非営利活動法人兵庫県有機農業研究会

事務局長 赤城 節子

【北海道】特定非営利活動法人日本有機農業生産団体中央会

事務局長 加藤 和男

【九州】財団法人自然農法国際研究開発センター

認定事務局長 今井 悟

14:15～15:45 演習① 課題「書類審査の実施」

15:45～16:00 休憩

16:00～18:00 演習②課題「検査で見るとすべきポイントの検討」

18:00～18:30 研修2日目の実地研修の説明

【東北】株式会社アフアス認証センター

代表取締役 渡邊 義明

【中国】【近畿】特定非営利活動法人兵庫県有機農業研究会

事務局長 赤城 節子

【関東（農産）】NPO法人日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会

遠藤秀和

【北海道】特定非営利活動法人北海道有機認証協会

事務局長 武内 智

【関東（加工）】【九州】財団法人自然農法国際研究開発センター

認定事務局長 今井 悟

18:30（予定） 第1日 終了

（敬称略）

【第二日目】

08:00~08:30 **集合**

09:00~12:00 **実地研修**

【東北】花咲農園

【中国】きよね有機の郷

【近畿】合名会社アリモト

【関東（農産）】さんぶ野菜ネットワーク

【北海道】伊藤農場

【関東（加工）】有限会社島田食品

【九州】植田圃場

12:00~12:30 **移動**

12:30~13:30 **昼食（各自）**

13:30~15:00 **演習③課題「情報の共有化と改善指摘事項の作成」**

15:00~15:15 **休憩**

15:15~16:00 **演習③の発表・講評**

【東北】【関東（農産）】【関東（加工）】

株式会社アフアス認証センター

代表取締役 渡邊 義明

【中国】【近畿】特定非営利活動法人兵庫県有機農業研究会

事務局長 赤城 節子

【北海道】特定非営利活動法人日本有機農業生産団体中央会

事務局長 加藤 和男

【九州】財団法人自然農法国際研究開発センター

認定事務局長 今井 悟

16:00~16:45 **演習④課題「検査報告書の作成」**

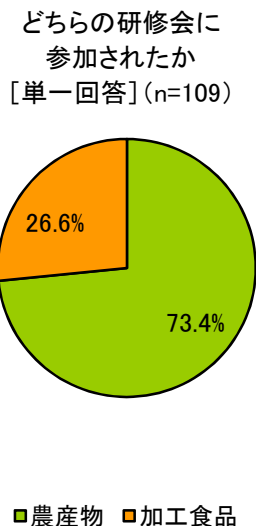
16:45~17:00 **ほ場関連資料の回収**

17:00（予定） **閉会**

（敬称略）

(4) アンケート結果

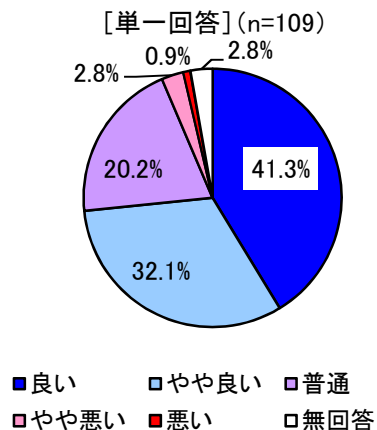
研修会の参加者を対象にアンケートを実施したところ、以下の回答が得られた。
(n=109)



また、研修会の感想を項目ごとに尋ねたところ、以下の回答が得られた。

① プログラム構成 (n=109)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ○を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【プログラム構成】

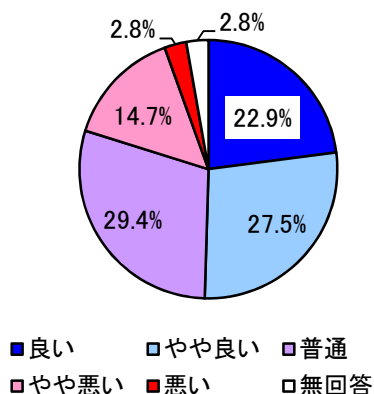


- 2日間に分けて十分な時間で作業ができる。
- JAS 関係の見直し方向などの情報がよく理解できた。事例に基づいて行なわれたのが良かった。
- グループワークで、多数の意見がでて、参考になった。
- 座学と実習のバランス良かった。
- 座学のあと実地研修で、ある程度段階をふんで内容を理解した上で臨めた。
- 検査員を今回、志された方には、少し内容が難しいと思う。導入部分については、個人ワークより、全体講義形式か、グループワークの方が良いのではないのでしょうか？。

② 時間配分 (n=109)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ〇を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【時間配分】

[単一回答] (n=109)

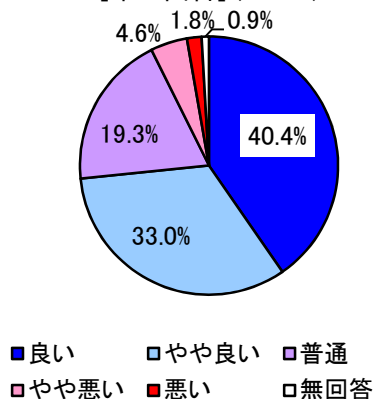


- 受講しやすかった。
- ディスカッションの時間は少し長いと感じた。
- 書類をみる時間がもう少しほしかった。
- もう少し実地検査での時間が欲しかった。
- 演習時間を 120 分と長くとってあるが、60~90 分にできないか。短くポイントを区切ってやると、良いのでは？
- もう少しゆとりがあってもよいのではないか。

③ 研修内容 (n=109)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ〇を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【研修内容】

[単一回答] (n=109)

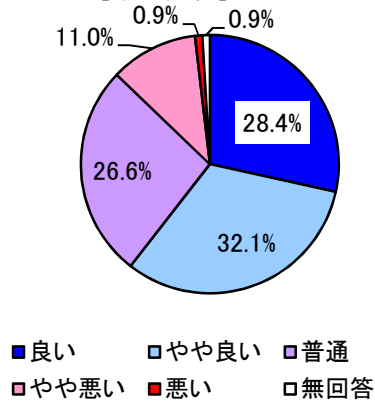


- 実践形式で検査のデモができたのがよかった。いろんな検査員たちと検査の視点などが見れて参考になった。
- (書類審査、実地検査両面で) 注意しなければいけないことなど、わかりました。
- 何をどう見れば良いのか、何をどう書けば良いのかがわからなかったので、どういう風に記載すれば良いか、例えがあれば良かったと思います。
- 検査員初心者に今回の内容は重すぎる。座学-実地を交互(1年おき)にやったらどうでしょうか？
- 良かったけれど、トレース等、まったく初めての参加者には何を確認すべきか解りにくかった。

④ 資料内容 (n=109)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ〇を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【資料内容】

[単一回答] (n=109)



- 現実の申請書と比べると足りない資料が多かった。抽出でもいいので、洩れのないように用意してもらいたい。現地研修の時間が有効につかえると感じました。
- 模範的な検査報告書があると理解が更に向上すると思う。
- 生きた資料を使わせて頂き、大変勉強になりました。
- 要点がまとめられていて、わかりやすい。

- ⑤ 今回の研修で学んだことの中で、特に、これからの業務に反映させたいと思う事項として以下の意見があった。
- 改正案を受け、農家への情報、指導を行ないます。
 - 検査における着眼点がつかめたので、いかしていきたい。
 - 重箱のすみをつつくのではなく、自分の仕事をさせていただくという姿勢が必要であり、それが今後の有機の広がりにつながるような気がします。
 - 事業者からいかに自発的に話をしてもらおうか。検査員を信頼してもらおうか。
 - 指摘事項については、十分な証拠、事実があった上で行う。
 - 規格、技術的基準を正確に理解し、要求事項との整合性をどうやって判断していくか。経験によるものが大きいと思いますので事例をこなし、適切な判断ができるようになりたいです。
- ⑥ 今回の研修で学んだことは、所属する組織等に、いつ、どのようにフィードバックする予定かを聞いたところ、以下の回答があった。
- 事務局会合で報告して、今後反映できる内容のものを選択して検査員判定員研修会で周知する。
 - 今回学んだことはミーティング等を通して情報共有していきたいと思います。近々、確認調査の様式の改訂を行う予定なので、今回学んだ検査員的な視点で改良を加えていきたいと考えております。
 - 他の検査員と同行する時があれば、今回の研修で学んだ事を話し伝えたいです。
 - 協会内の講習でもとり入れ、演習も入れていきたいと思います。
 - 実際の年次検査の場で、生かしていきたい。
 - 私は農家なので、自分が認証を受査する立場になったときに、その準備のためにフィードバックします。

2.2. 有機 JAS 判定員研修会

有機農産物及び有機加工食品の判定員及びこれらを目指すものを対象に、規格の改正についての理解を深めるとともに、演習を通して多様な事例に接し、共通の判断を学ぶための研修会を開催した。

(1) 告知方法

登録認定機関を通じて告知を行った。

(2) 開催日程及び参加人数

会場	開催日	開催場所	募集人数	参加人数
東京会場	平成 24 年 2 月 22 日(水)	三菱総合研究所 東京都千代田区永田町 2-10-3	60 名	69 名
大阪会場	平成 24 年 3 月 6 日(火)	大阪リバーサイドホテル 大阪市都島区中野町 5-12-30	60 名	26 名
合計			120 名	95 名



研修の様子（大阪）

(3) タイムスケジュール及び講師

8:50～ 受付

9:20～ 9:30 開会・事務連絡

9:30～12:00 JAS 規格改正の概要等

農林水産省 消費・安全局 表示・規格課 島崎 真人

12:00～13:00 休憩

13:00～17:50 演習

【東京】【大阪】

特定非営利活動法人日本有機農業生産団体中央会

事務局長 加藤 和男

【東京】【大阪】

特定非営利活動法人兵庫県有機農業研究会

事務局長 赤城 節子

【東京】

日本オーガニック検査員協会

理事長 丸山 豊

【東京】

株式会社アファス認証センター

代表取締役 渡邊 義明

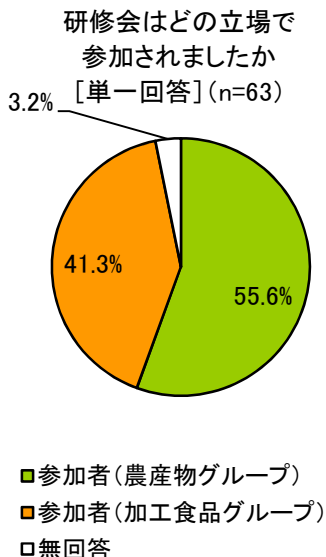
17:50～18:00 質疑応答・資料回収

18:00 閉会

(敬称略)

(4) アンケート結果

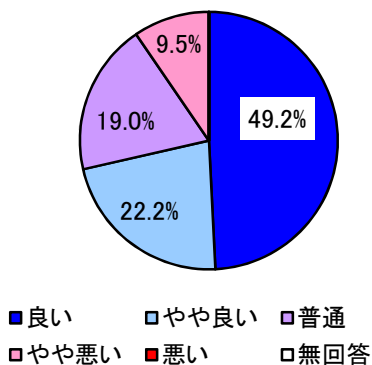
研修会の参加者を対象にアンケートを実施したところ、以下の回答が得られた。
(n=63)



また、研修会の感想を項目ごとに尋ねたところ、以下の回答が得られた。

① プログラム構成 (n=63)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ〇を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【プログラム構成】
[単一回答](n=63)



- 時間的に無理がなく良かったと思います。
- 農産と加工グループを午後は会場を分けた方が良かったのでは。
- 農産グループと加工グループの演習は別室で分けてやった方がよい。同一の部屋でやるなら、全員に資料を配布すべきだ。→他グループの討議の内容がよく理解できず、時間のムダになる。
- 有機 JAS 規格の見直し概要について、畜産よりは農産・加工に時間をとって、変更事項をもう少しふみこんで説明してほしい。メタン発酵について、パブコメででてきた内容とそれへの回

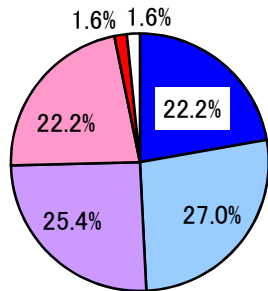
答などをききたかった。

- JAS 規格改正の新しい情報が、その背景も含めて知る事ができた。
- 演習の自習は、事前に読んできて、両方演習を現場で行いたい。

② 時間配分 (n=63)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ〇を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【時間配分】

[単一回答] (n=63)



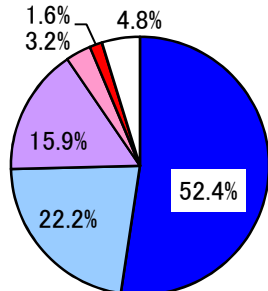
■良い □やや良い □普通
 □やや悪い ■悪い □無回答

- 演習の時間ちょうどよかった。
- 発表までの時間の配分がよかったと思う。
- 1日としては長すぎる。
- 長い。もし、判定そのものを今のスタイルで演習するのであれば、事前に資料をみて、問題を整理しておいた方が効率がよい。(ねらいをしぼってあっても、全部読ませる形であれば)。
- 集中できる時間は90分位である。休憩が必要。
- 農産と加工の会場分ければ今少し早く終るのでは。
- 終了時刻を5時すぎまでにすべき。

③ 研修内容 (n=63)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ〇を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【研修内容】

[単一回答] (n=63)



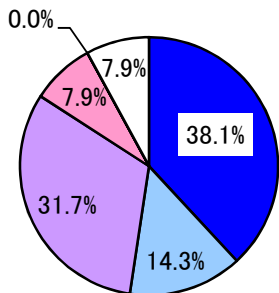
■良い □やや良い □普通
 □やや悪い ■悪い □無回答

- JAS規格がとてもわかりやすかった。
- 「判定の役割によせて」が良かった。
- 判定をすることで、検査及び検査報告書に必要なことのふりかえりができた。
- 演習も重要だが、巾広いポイントをおさえた講義も欲しい。
- 判定演習の資料は、普段用いているのと様式等異なるために、短時間で読むのに苦労する。できれば事前配布望ましい。
- 講義が他の機会に聞いた内容が多い(仕方がないかも)。

④ 資料内容 (n=63)

研修会の感想はいかがですか。項目ごとに1つ〇を付けてそれぞれ理由をご記入ください。【資料内容】

[単一回答] (n=63)



■良い □やや良い □普通
 ■やや悪い ■悪い □無回答

- 演習資料のボリュームが多く、見るべきポイントにきちんと目を通すことができなかった。
- 最後、答えあわせの資料がほしいです。
- 加工グループであったが、農産の資料も欲しい。
- 内容自体には問題ないと思う。
- 農産を受けているが加工の資料もあると最後の加工の説明がわかりやすく、一緒に勉強できるのでありがたい。
- パワーポイントの内容を明確にしてほしい。

⑤ 今回の研修で学んだことの中で、特に、これからの業務に反映させたいと思う事項として以下の意見があった。

- JAS 規格の改正概要：ネットで対照表を見ても中々理解できなかったことが、ある程度改正方針が理解できるようになった。記録の保存期間設定の主旨、認定事項の変更の事前届出について、再認識した。
- 有機に関する規格・基準、以外の関連諸法規にどこまで言及すれば良いか参考になった。
- 有機の起算点について。
- 規程の変更を常に確認し、実際の検査に役立てること。
- 保管期間についてなどはとても勉強になった。色々なグループの意見をきける良い機会だった。
- 演習でのチェックポイントが大変参考になった。
- 検査員の過剰な要求がなかったかについても配慮しなければならない。
- 「転換期間中」の判定について、私の概念は今まではっきりしていなかったのですが、今回のおかげでよく分かりました。

- ⑥ 今回の研修で学んだことは、所属する組織等に、いつ、どのようにフィードバックする予定かを聞いたところ、以下の回答があった。
- 今回の資料は当認定機関の審査判定員会議にて活用したいと思います。
 - ミーティングの中でフィードバックする。
 - 検査報告書の作成を検査員研修会で行う。
 - 帰ったらすぐにでもフィードバックしていきたい。「この研修は、いつまであるかわからない」とのことでしたが、是非続けてもらいたい。検査員・判定員研修は重要だと思うので、国に要望してもらいたい。
 - 判定業務を通じて、フィードバックしたい。
 - 4月に組織で有機JASについて勉強会を実施する予定です。
 - 定期的見直し会合を行っているのでこの時に。
 - ISO17005による業務規格改訂時に、反映させる。

3. 冊子「有機農産物検査認証制度ハンドブック(改訂第4版)」、 「有機加工食品検査認証制度ハンドブック(改訂第2版)」

当ハンドブックは、有機農産物や有機加工食品の生産に取組み始めた生産者や、これから生産を始める生産者、及びこれらを管理する事業体の指導者を対象に、有機 JAS 認証制度の概要、生産の方法についての基準、認定申請の手続きなどをまとめたハンドブックである。

今年度事業では、平成 24 年の有機 JAS 規格改正内容を反映して改訂を行った。

なお、執筆にあたっては、特定非営利活動法人日本オーガニック検査員協会の理事長である丸山氏にご協力いただいた。

(1) 体裁

有機農産物検査認証制度ハンドブック(改訂第4版) A4版、本文125ページ
有機加工食品検査認証制度ハンドブック(改訂第2版) A4版、本文103ページ

(2) 構成

有機農産物検査認証制度ハンドブック(改訂第4版)

- 第1章 JAS法と有機食品の検査認証制度
- 第2章 有機農産物の生産と管理の詳細
- 第3章 有機きのこの生産管理方法と生産基準
- 第4章 有機農産物の表示
- 第5章 関連法規

有機加工食品検査認証制度ハンドブック(改訂第2版)

- 第1章 有機認証制度の概要
- 第2章 有機加工食品の生産の方法(JAS規格第2、4条)
- 第3章 有機加工食品の生産行程管理者の認定の技術的基準
- 第4章 加工食品の品質表示と有機加工食品の表示
(品質表示基準とJAS規格第5条)
- 第5章 業種別ポイント
- 第6章 外国における有機JAS

(3) 作成部数

各500部

(4) 配布先

当該事業で実施する「有機JAS判定員研修会」及び「有機JAS検査員研修会」の参加者を中心に配布した。